

2008年6月2日

セブン-イレブン店舗への配送業務および洞爺湖サミットへの取組み 配送車両に循環型バイオディーゼル燃料を使用!! ～6/2(月)より、札幌・苫小牧エリアを中心に実証実験をスタート～

株式会社セブン-イレブン・ジャパン(東京都千代田区、代表取締役社長 最高執行責任者<COO>山口 俊郎 以下セブン-イレブン)は、経済産業省、国土交通省が協力し、物流分野のCO₂排出削減を目的に活動している「グリーン物流パートナーシップ会議」の今年度のソフト支援事業として、配送車両の燃料にバイオディーゼル燃料(以下BDF)を使用した実証実験を、2008年6月2日(月)から8月31日(日)の約3ヶ月間にわたり行います。配送車両は、北海道札幌市近郊および苫小牧エリアのセブン-イレブン約460店舗と北海道洞爺湖サミットの弁当供給業務を対象としており、この実証実験期間の約3ヶ月間で、CO₂排出を約42.7トン削減する見込みです。

実証実験に用いるBDFは、セブン-イレブンの店内でフライヤーを使用し、揚げ物商品として販売している“コロッケ”や“鶏のから揚げ”等を揚げた後の廃油や、セブン-イレブンの弁当等を製造する協力工場の揚げ物工程で発生した廃油を回収し、その廃油を精製して製造されたもので、完全循環型のリサイクル燃料となります。

また、今回の実証実験は、札幌市内2箇所と白老町内1箇所のチルド米飯共同配送センターにある58台の配送車両全てを活用し、期間中の総走行距離約200万キロメートル、BDF使用量約1万6千リットルと、国内でも最大規模のものとなります。燃料は「揮発油等の品質の確保等に関する法律」に則り、BDF5%の混和燃料を使用するため車両改造の必要はなく、既存のインフラを活かしながら実験を行うことが出来ます。

さらに、セブン-イレブンは、この7月に開催される北海道洞爺湖サミットの警備関係者等の方々への弁当供給業務を受託しており、これらの弁当の配送車両にもBDFを使用いたします。配送車両の全車に「北海道洞爺湖サミット支援」や「BDF使用」のステッカーを掲出し、実証実験の訴求を行い、環境負荷軽減を民間企業としてサポートしてまいります。

セブン-イレブンでは、今回の実証実験の結果を検証の上、BDF使用における課題や問題点を各行政機関等への提言として活用する等、今後も環境対策への取組みを推進してまいります。

【実験の概要】

実験期間:2008年6月2日 ～ 8月31日の約3ヶ月間

対象車両:チルド米飯札幌東センター、チルド米飯札幌西センター、チルド米飯苫小牧センターの全配送車両58台

実験概要:(1)札幌市周辺でフライヤー設備を導入しているセブン-イレブン店舗(約160店舗)や弁当工場から排出される廃油を回収し、BDFを精製。そのBDFを5%混和した燃料を使用して、セブン-イレブン店舗および北海道洞爺湖サミットの会場等に配送します。
(2)配送車両に搭載している車載端末の運行データを利用し、配送実績をもとにCO₂排出量を算出。効率的な運行ルート of 立案も行い、環境負荷の低減を目指します。

検証内容:(1)民間企業の完全循環型リサイクルによるBDF活用の事業性

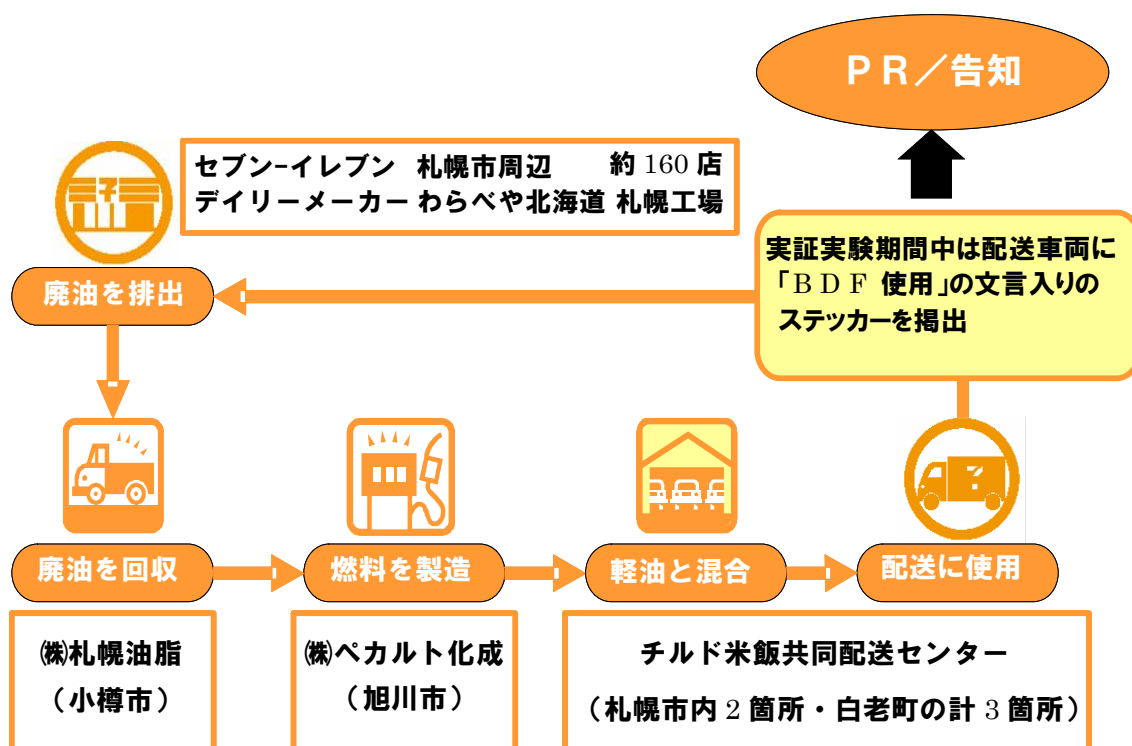
(2)BDF活用による車両や走行への影響

(3)CO₂削減効果の実証 ※CO₂削減見込み量約42.7トン(3ヶ月間の合計)

【セブン-イレブン以外の協力企業と各社の役割】

- ◆株式会社富士通総研 : 「グリーン物流パートナーシップ推進事業ソフト支援事業」の実行窓口として、運営支援・最適コースの算出等を行います。
- ◆株式会社ヤマカ山加運輸 : チルド米飯共同配送センターの運営および走行への影響度を調査します。
- ◆いすゞ自動車株式会社 : 使用車両への影響度を調査します。
- ◆株式会社ペカルト化成 : 回収された廃油をBDFに精製します。
- ◆株式会社札幌油脂 : セブン-イレブン店舗や弁当工場より、廃油を回収します。

【完全循環型リサイクルの仕組み】



【配送車両のイメージ図】



以 上